



宮司 プレス 八十九号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十五年十一月二十七日

◇宮司の柴田です。 八月まで、八十七か月連続で毎月発行していた宮司プレス、八十八か月目にして、志(こころざし)なかばで、連続発行が、途絶えることとなってしまいました。

九月号は休刊、お休みさせて頂きました。しかしながら、十月に二回発行すれば、毎月一回のペースは守られる、起死回生(きしかいせい)の名譽挽回(めいよばんかい)をしなければと一念発起(いちねんほつき)しましたが、発行はおろか編集もままならず、いたずらに時だけが過ぎ、今現在、一か月遅れであります。まさしく、有言不実行(ゆうげんふじっこう)でありまして、「うどん屋の釜(かま)」でありますね。 「湯(言う) ばっかり」になってしまいました。 猛省をしながらの発行が続いていますが、みなさま、お待たせしました。 「宮司プレス第八十九号」の発行です。

◇十月の半ばまで、残暑という言葉がふさわしいのかどうか定かではありませんが、厳しい暑さが続きました。 季節の移ろいは、急ぎ足で速度を増して、秋の気配を感じる間もなく、境内の桜や楓(かえで)の葉は色づき、時折吹く

木枯らしに、鮮やかな紅の葉を惜しみなく散らします。 その紅の葉を散らさないと、冬は訪れません。 まさに、季節の移ろいは、「仁」と「義」で成り立っています。 秋という季節が、自分を犠牲にして、紅の葉を散らし、冬の訪れをたすけるというのが、季節の移ろいですよ。 自ら犠牲になる、もつてうまれた宿命(しゆくせ)を全(ま)つと(う)する「正しき道」、それが、「義」という心です。 その「正しき道」は、次の季節のためなのです。 「いくくしみの心」、思いやり優しき、「仁」という心なのです。 「極端気象(きよくたんきしょう)」によって、徒然草にも書かれている、「四季は定まれる序あり」という、正確で定まっていた季節の移ろいも、不順になってしまいましたね。

◇浮世離(うきよばな)れた、ユニークな人物で、国際的な数学者の岡潔(おか きよし)先生は、昭和三十五年に文化勲章を受章されました。 その文化勲章の親授式(しんじゆしき)の後、昭和天皇様からの「数学とはどのような学問であるか」という御下問(ごかもん)に、「数学は生命(せいめい)の燃焼(ねんしょう)によって作るのです。」と答えられたそうです。 数学は、無機的(むきてき)で抽象的(ちゆうし)な(ちゆうし)な世界と思われがちですが、岡先生は、「数学で大切なのは情緒であり、その情緒とは、野に咲く一輪のスミレを美しいと思う心」と述べられています。 一輪の花を愛(め)でる心は、やはり、心の余裕でもあり、日常生活のちよつとした変化も見逃さない、仕事に対しても真摯(しんし)に、人との接し方も細やかになるのではないのでしょうか。 「仁」と「義」でなりたつ大自然の営み、あたり前のことではありませんが、恐れと畏敬(いけい)、感謝の気持ち忘れてはならないと思います。

◇江戸時代末期、幕末期の文壇(ぶんだん)において、清新(せいしん)な万葉調(まんようちよう)の歌を詠(よ)まれた歌人(かじん)の橘曙覧(たちばなあけみ)の「たのしみは」からはじまる「独楽吟」に、 「たのしみは 朝起き出でて 昨日まで なかりし花の 咲ける見るとき」と詠まれています。 昨日まで咲いていなかった花が開く、そのような何でもない日常の出来事に感動する、心が揺さぶられる、その感性は、誰の心にも宿っています。 自分自身が、その感性を大事にしなければ、磨(みが)かれないのです。 日常の小さな発見に目を向けて、そこから感動を得られるかどうか。 心の持ち

方で、豊かな人生になるのですね。

◇十二世紀、西暦一一八七年に宋の国で、初学者(しよがくしゃ)の課業(かぎよう)、いわゆる八歳から学ぶ者の教科書として編纂(へんさん)された「小学(しよがく)」に、

「人を責める心をもって己を責め、己を恕(じよ)する心をもって人を恕す」とあります。

人を責める時の勢いで自分を責め、自分の身を大事に思うように人を思いやる、「恕(じよ)」とは、優しく思いやりです。人は、いかに自分に対して甘く、人に対して厳しいことが多いかということでありまして、自分に厳しく他人に対して寛容(かんよう)さを持ち合わせることが大切です。まさに、この紅の葉を散らす「義」の心で己を律し、来るべき季節を迎える「仁」という優しきで人に接することを心掛けたいと思います。そして、どんな時にでも、「野に咲く一輪のスマレを美しく思う心」を忘れずに、物事に対処したいものです。

◇いよいよ本年も残すところ一月、整理整頓(せいりせいとん)、大掃除をしなければなりませんね。整理とは、物を減らすことで、整頓は、物を使いやすいように配置する、置き場を決めることです。片づけに失敗する人、得意でない人は、整頓から始めるのだそうです。後始末は、次なる行動へのステップですから、すぐに、心を込めて、完全にが鉄則ですね。

「うどん屋の釜(かま)」、「湯(言う)ばっかり」の私が申し上げても、あまり、真意(しんい)が伝わらないと思いますが、皆様、遺漏(いろう)なく年の瀬を迎えられ、御多幸でありますようにお祈り申し上げます。

◇十月の祭典行事報告

▼月次祭 *十月一日、十五日

▼海上自衛隊ミサイル艇おたか参拝

*十月二日

▼三菱重工業(株)下関造船所殉職者慰霊祭

*十月三日

▼六連島八幡宮秋季例大祭

*十月四日～五日

▼田の首八幡宮秋季例大祭

*十月十三日～十四日

▼舞子島八幡宮例祭 *十月十五日

▼朝粥会 *十月十七日

▼秋季例大祭 *十月十九日～二十日



◇十月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇敬神婦人会役員会 *十月二日

◇とわかグラウンドゴルフ大会 *十月六日

◇敬神婦人会草刈作業 *十月十三日

◇秋季例大祭企画室会議 *十月十六日

◇敬神婦人会秋祭準備作業*十月十八日

◇彦島リーグソフトボール大会*十月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇伊勢神宮式年遷宮内宮遷御に参列

*十月二日～三日

◇支部三役会 *九月十七日

◇神宮大麻増頒布推進大会 *九月十九日

◇支部長事務局長会議 *十月二十四日

◇神宮大麻頒布始祭奉仕*十月二十四日

◇支部三役会 *十月二十八日

▼西ロータリークラブ ◇例会

*十月十六日、二十三日、三十日

▼講演活動

◇今八幡宮例祭 *十月六日

◇本村小出前講座 *十月十日

◇下関北RC例会卓話 *十月二十二日

◇山銀はってんクラブ講話*十月二十四日

◇西山小出前講座 *十月二十五日

▼教誨活動

◇入所時指導講話 *十月十六日(女子)

▼その他

◇リバース彦島例会 *十月十四日

◇消防団 西山小津波避難訓練 *十月二十九日